

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【茶、東海農政局】

三重県 JA全農みえ（産地生産基盤パワーアップ事業：R6）

- 茶市場に付属する老朽化した2か所の冷蔵貯蔵施設を再編集約し、あわせて、需要に応じた茶の生産拡大にも対応できる冷蔵貯蔵能力を持つ施設へと合理化。
- 産地全体で、冷蔵貯蔵能力の向上及び運営コストの低減を図るとともに、需要に応じた茶種への転換を後押しすることで農業所得向上に寄与し、茶産地の維持・活性化を図る。

現状・課題並びに再編集約等の内容

【産地の現状・課題】

- 近年の物価高により、燃料や資材等のコストが上昇し、産地の北勢と南勢に離れて2か所あった冷蔵貯蔵施設の運営コストが増大。施設の老朽化も課題。
- 抹茶需要の高まりに対応したてん茶の生産拡大が進む中、てん茶は従来のせん茶等に比べ嵩（かさ）が増えるため、冷蔵貯蔵施設のスペースが不足。

【再編集約等の内容】

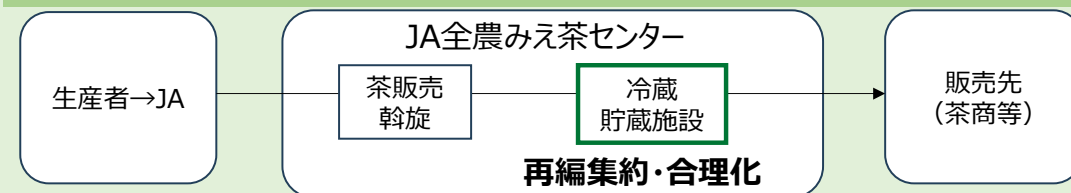
- 冷蔵貯蔵機能を産地の中ほどにあるスマートIC隣接地の1か所に集約することで、物流機能を向上し、集出荷コストを低減。
- 新施設には電動式の移動ラックを採用し、既存の固定ラック式の施設に比べ床面積あたりの冷蔵貯蔵能力を2倍以上に向上。



再編集約・合理化等で期待される効果

- 生産者は需要に応じ、せん茶等からてん茶へ茶種を転換することで、高単価の茶生産が可能になり所得が向上。茶産地全体の活性化が期待できる。
- 冷蔵貯蔵機能の集約に併せて茶市場機能も集約することで、茶商側は1か所で取引できる茶の量が増え、生産者側は新たな茶商との取引の可能性も広がることから、販路拡大が期待できる。

全農みえ茶センターを通る茶の流れ



他産地へのメッセージ

- 本事業を契機に、施設再編に向けた協議を加速させることができた。
- 合意形成には時間を要することが予想されたため、数年前から準備に取り掛かり、関係者としっかり話し合いを進めてきた。事業をスムーズに実施するためには、早期の取組開始と日頃の関係者とのコミュニケーションが重要と考える。